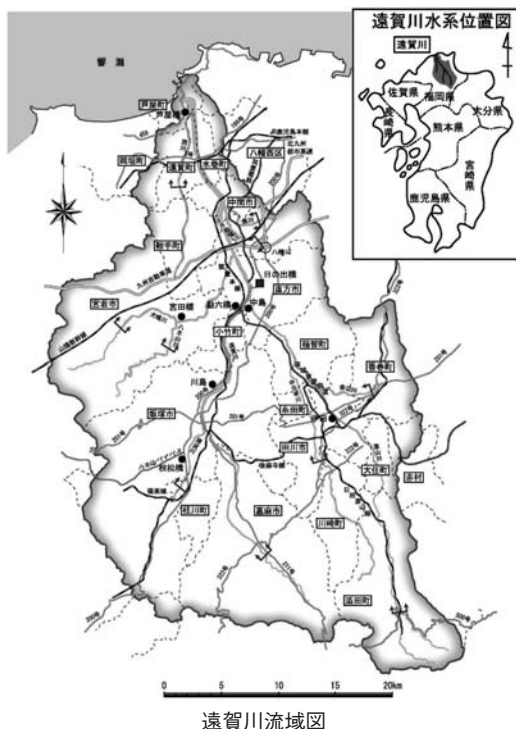


遠賀川の再生を目指して… ～森・川・海の連携～

遠賀川流域住民の会

遠賀川の位置と歴史

遠賀川は福岡県北部の、福智山、英彦山、三郡山などの900～1200mの山々に囲まれ平野を南から北へ流れています。馬見山の谷間に源流があり、72の支流を合わせて、河口の芦屋まで流れ、全長61.7kmあり、福岡県で二番目の大河です。遠賀川のおおその流れは、今から100万年から約1万年前の氷河時代に定まったといわれています。流域は農耕文化の起源とも言われており、弥生時代以降の遺跡や古墳などが数多く分布しており、古くから人々の生活が営まれていたことがうかがえます。また、近代では筑豊炭田として栄え、日本の発展に大きく貢献し、産業・経済の礎と



- ・流域面積1,026km²
- ・流域内人口約63万人
- ・関係市町村7市14町1村
- ・流域内人口密度約620人/km²
(九州の一級河川の中で第1位)

なって流域の歴史を育んできました。

関係市町村数は7市14町1村で中上流部には、嘉麻市・飯塚市・田川市・直方市といった主要都市を有し、さらに下流部にはアジアの玄関口である北九州都市圏を擁しています。

遠賀川は流域の約63万人・北九州市の水利用の6割・北福導水により福岡都市圏への利用等約150万人の命の水です。

NPO法人遠賀川流域住民の会設立の経緯

昭和63年4月に飯塚市の市民有志が「I LOVE 遠賀川実行委員会」を結成し、10月に市の中心部を流れている遠賀川の河川清掃を行った。これに伴って流域市町村で同じように河川の清掃が行われるようになった。平成5年12月に流域の活動団体が一堂に集まり活動報告と情報交流を行うために「遠賀川流域活動団体報告会」〔継続事業〕を開催した。その後この活動を流域全体に広めようと「I LOVE 遠賀川流域住民交流会in○○」〔継続事業〕と銘打ち毎回会場を持ち回りで今日も開催している。しかし、個々の活動では流域全体の河川環境は改善しないことに気がつき、活動団体に呼びかけ流域連携ネットワークを図る組織を立ち上げようと強い要望が出てきました。地域ごとの活動では遠賀川全体の自然再生は出来ない。森・川・海が連携した広域連携組織を作ろうと「遠賀川流域住民の会」を設立し、翌年NPO法人の認定を受け今日まで継続して行っている。今日では約80の団体が活動しています。

主な取組み

源流の森再生応援団…竹林の整備と竹炭づくり、水質浄化、堆肥として活用

遠賀川の源流の森は非常に荒廃しています。特に竹林が山林を侵食していることに起因し、水量の減少が危惧されます。森を守ることは、川や海が活かされ、私たち人間が活かされることです。放置された竹林を伐採

し、竹炭を作り、この竹炭を水質浄化に役立て、さらに使用した竹炭を肥料として活用しようと実施しました。

この事業は福岡県が実施している森林環境税を財源とした「森林づくり活動公募事業助成事業」を受けて平成22年度より、地元の高校生や大学生及び流域活動団体や地元企業・一般ボランティアを公募し、年に2回から3回実施しています。高校生は森林環境の現状と体験をとおして、また、大人との協同作業の中で色んなことを学んでおります。特に地元の高齢者の経験豊かな人達の支援はとてありがたいことです。この事業に取り組み感じたことは、遠目には森は緑で綺麗ですが、山に入ると杉・ヒノキの森は真っ暗です。間伐や枝打ちはされず、手入れがされておられません。竹がこのヒノキや杉林を侵食しているわけであります。下草も生えていないのです。森の保水力は減少しています。山は瀕死の状態です。大雨の時に山崩れが起こるのは当然であります。この現状を1人でも多くの方に認識していただきたい。



写真1 源流の森再生応援団写真

河川敷きの葦を刈り取り堆肥づくり・・

河口堰に溜まるゴミは生活系のゴミが2割、自然系のゴミが8割です。自然系のゴミは流木と草で葦がほとんどです。この葦を資源として活用できないか色々研究した結果、昔は肥料として活用していたことが分かりました。嘉麻市大隈地区の活動団体に呼びかけ周辺の農家やまちづくりに興味のある方に相談しTOTOの支援を頂き実施しました。大雨の後での作業でとても大変でした。葦を刈り取り、土手の上に人力で引き上げ、トラックに積み込み、倉庫に運び、そこで3cm程度に切り、米ぬかと水を混ぜ、半年掛けて堆肥作りを行っております。この堆肥で米や野菜作りを行っております。とても美味しいと評判です。葦は窒素やリンを吸収して大きくなります。このことは水質の浄化に役立っています。年に二回刈り取りを行います。二年目から嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会を組織し、有償ボランティアで出来ないかと、遠賀川河川事務所が発注している草刈り作業の委託を受け、継続した活動ができる体制を整えました。現在は支援を行っております。この事業が流域全体に広がると河口堰のゴミの減少と美味しい米や野菜が流域の食卓に提供できま



写真2 草刈り・その他の作業風景等

す。しかし、課題もあります。農業者が高齢で手間隙欠けるこの作業が出来ないことです。現在は、50～60歳の方をお願いして作業行っております。

遠賀川流域活動団体報告会…

この事業は遠賀川流域の活動団体が一堂に集い、一年間の締めくくりとして、流域で活動する団体や学校の児童・生徒の活動報告などを行い、また、情報交流を行っている。二年前には東日本大震災に対し支援やボランティア活動された行政職員・消防署職員・市民ボランティアの報告会を行った。災害に対する学習と対応について学びました。毎回テーマを決めて学習会を行っています。



写真3 遠賀川流域活動団体報告会写真

I LOVE 遠賀川流域住民交流会in嘉穂…24年度は第18回を嘉麻市で開催。

この事業は流域市町村持ち回りで開催しています。私たちの大切な遠賀川の自然再生に取り組んでいる団体や学校等の活動を発表してもらっています。参加者は担当地域の住民の参加を積極的に呼びかけ遠賀川の自然再生にご理解を得ようと努力しています。その成果が現在約80の活動団体になりました。また、の中で



写真4 遠賀川流域住民交流会写真

質疑等について論議し、新たに実施した事業もあります。それは、芦屋・若松海岸クリーンキャンペーンです。

芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン…

この事業は上記の中から実施したものです。大雨の度に芦屋海岸はゴミで埋め尽くされます。この現状を上流域の住民は知りませんでした。水が美味しいか、まずいだけでなく、芦屋の漁師さん達は船が出せず漁にいけないわけです。まさに死活問題です。この現状を知り、流域全体に広報活動を行い毎年実施するようにしました。

24年度〔第11回開催〕は毎年9月開催。約500名の参加でした。この趣旨は、河口堰や海岸に流れ出たゴミを上流域に住む者の責務としてみんなでゴミ拾いにいきましょうと呼びかけて開催しています。参加者は流域住民・企業・学生・行政職員等です。このことにより流域住民は環境に対する意識の変化が見られるようになりました。



写真5 芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン写真

カヌー駅伝大会…

この事業は子供たちに川に親しんで、川に興味を持ってもらおうと開催したものです。内容は1人の競技ではなく、1チーム五人の駅伝方式です。昨年は〔10回大会〕9チームの参加で、その中で、6歳の子供と79歳の高齢者がチームを組んでの参加でした。このチームは



写真6 カヌー駅伝大会写真

三位になりました。競技中は一生懸命ですが、参加者はとても楽しく過ごしています。また、競技後は応援者も含めて全員で周辺の清掃作業を行い終了とします。飯塚カヌー協会の支援で行っています。

遠賀川一斉清掃…

10月を遠賀川一斉清掃月間と定め毎年行っております。約1万人程度が参加されます。流域の活動団体の中には毎月されているところもあります。



写真7 遠賀川一斉清掃活動写真

遠賀川一斉水質調査…

毎年六月に全国一斉水質調査〔全国水環境マップ実行委員会へ報告〕時に〔流域20箇所〕と3月に実施している鮭の放流時に小学生などの参加者と調査を行っています。

鮭のふ化・育成・放流…

源流地域に「鮭神社」約1200年前からあります。遠賀川は鮭遡上の南限の川と言われて昔は鮭が沢山遡上していました。大正15年11月3日に飯塚市で捕獲された鮭がホルマリン漬けされたものがあります。しかし、昭和になり石炭産業が盛んになり遠賀川は汚れてしまい、鮭の遡上はなくなりました。その後、石炭産



写真8 水質調査写真

業の衰退と共に昭和53年に鮭が遡上してまいりました。これがきっかけで「遠賀川に鮭を呼び戻す会」が翌年に設立され、受精卵を新潟県村上市の三面川漁協より分けていただき、ふ化・育成・放流事業を行っております。代表の大里氏が亡くなられたので、遠賀川流域住民の会が引き継ぎ実施していましたが二年前、嘉麻市の支援でふ化場等を整備しました。これに伴い地域の人達で「遠賀川源流サケの会」を組織し実施しています。現在は支援を行なっております。今年は流域全体で20箇所、約2000人が放流に参加しました。



写真9 サケのふ化・育成・放流活動写真

I LOVE遠賀川流域リーダーサミット…

この事業は平成20年1月に第一回を北九州市八幡西区木屋瀬宿記念館こやのせ座で開催。第二回を直方市。昨年1月に第三回を飯塚市で開催。〔二年毎に開催〕趣旨…

遠賀川は、私たちが生まれた時から身近な川です。私たちの母なる遠賀川は、古代より今日も流域で生活している私たちの「生命の水」です。しかし、今日も遠賀川は泣いています。流域には22の市町村、64万人が生活しています。北九州市は水源の約6割が遠賀川にお世話になっています。さらに北福導水の実施により福岡都市圏の大切な水として利用されています。私たちの遠賀川流域の自然環境は、なかなか向上しません。流域で約80の住民活動団体が日々河川の清掃や河川環境保全・環境教育等それぞれの地域で活動しています。流域の自治体と住民が連携し、協働で遠賀川の自然再生に取り組む必要があります。そのためには、森・川・海の住民が手をつなぎ一緒に行動することが望まれます。

第三回流域リーダーサミットは、遠賀川流域の全22市町村長、福岡県知事、遠賀川河川事務所長が壇上に揃い、水源の山々から海までつながり響きあう生命の環を



写真10 リーダーサミット写真

育てる“などとした3ヶ条の「遠賀川流域宣言」を行ないました。この宣言により遠賀川は流域市町村及び福岡県の共有財産として、遠賀川の再生を目指す体制が整い行政と流域住民の連携をさらに推進してまいります。

流域の広報活動…

広報活動については、住民の会のHP及び遠賀川流域だより〔年6回、毎回6,000部発行〕遠賀川河川事務所より委託事業です。流域全域の情報収集と配布を行っています。また、各事業ごとに報道関係や流域活動団体・小中学校・高校・大学・流域22市町村等に広報活動を行っています。

環境教育…

流域の小中学校や公民館と連携し河川環境学習を毎年開催しています。内容は川の動植物調査・水質調査等で子供たちは水に浸かり魚すくい等楽しく学習しています。また、遠賀川の水環境保全に取り組む各団体の活動内容等を学んでおります。



写真11 河川環境教育写真

特記…

2006年3月に発行した「もっと知りたい遠賀川」の歴史本です〔207ページ〕。小学校等に話しに行くに質問がでます。昔は遠賀川は黒かった。炭鉱があった。お城があった。古墳があった等色々質問が出ます。そこで遠賀川を縦糸に流域の歴史を、子供たちに分かるように制作しようと計画しました。三年掛かりましたがとてもよい歴史本ができました。この本を小学校に12冊、中学校に6冊〔流域235校〕へ歴史教育の副読本として活用していただくために、無償で配布しました。

遠賀川流域住民の会
理事長 窪山 邦彦